

## ■「指導内容」：北方領土の自然、風景について

### 1. 本項目の指導内容とねらい

①指導内容	○北方四島の自然や風景
②ねらい	外交上の問題、歴史的な問題として理解しがちな北方領土問題について、島内の自然環境や風景を知ること、より身近な地域の事象として理解させる。

### 2. 指導上の留意点とアドバイス

北方領土教育の経験豊富な現任教員からのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北方四島の自然や風景について、興味・関心を持って調べさせたい。その際、対岸の北海道東部の自然や風景と似ている点に気づかせるとともに、北海道東部から、四島の様子を類推させると良い。</li> <li>・北方四島には、現在も手つかずの自然が残されていること、また、周辺海域には、豊かな水産資源があることを理解させる。</li> <li>・北方四島の自然や風景などを通じて、自分たちが暮らす地域との類似点、相違点を明らかにする学習活動を取り入れることが有効である。</li> <li>・ロシアから見れば、広大な国土の中でも北方四島は、南に位置する比較的温暖な地であることを気づかせたい。</li> <li>・北方四島の自然を守るための取り組みがあること、その難しさにも気づかせたい。</li> </ul>
ポイント	<p>○多くの生徒には、北方領土問題は外交上の問題、第二次世界大戦に起因する歴史的な問題として認識されている。このような前提に基づくとき、島内の自然環境や風景について見聞きさせることは、問題を身近な事象として理解させる上で有効である。また、北方四島は、自然や風景の面で対岸の北海道東部に近いことを認識させ、北海道の延長として理解させることが重要である。</p> <p>○我が国の「世界自然遺産」(屋久島、白神山地、知床、小笠原諸島の4地域)や北海道における自然を活かした観光産業について説明する中で、併せて、豊かな自然環境が残る島々として、北方四島の地形や気候、動植物等を取り上げることにより、生徒が北方領土問題に対し、多面的な理解を持つことができるようになる。そのため、外交や歴史の観点からだけでなく、自然環境や風景の面から、1つの事例として四島を紹介することの教育的な意義は大きい。</p>

### 3. その他の詳細資料

#### 詳細資料

#### ■北方四島の風景

- 北方四島は火山地帯であり、噴火活動によって度々地形が変化してきたものと考えられている。
- 地質学的には、歯舞群島と色丹島は根室半島の延長であり、緩慢な起伏のある丘陵地である。これに対し、国後島と択捉島は得撫島以北の千島列島とともに、カムチャッカ半島に至る約 1,200km の弓状に連なる火山列島を形成し、島内には爺爺岳、散布山などの 1,500m を超える高い山々がある。

#### 北方四島の「島の名前の由来」と「島内の自然環境」

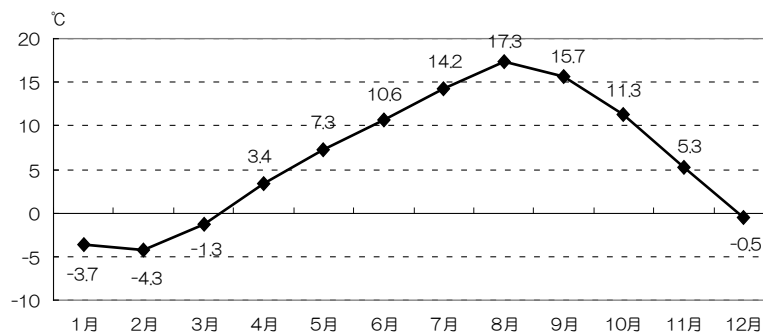
島名	島名の由来 (アイヌ語)	島内の自然環境
歯舞群島	流水のある島	水晶島、秋勇留島、勇留島、志発島、多楽島などの島々からなる。各島とも緩やかな起伏のある丘陵地で、笹が生い茂り、樹木はほとんど生えていない。現在一般住民はいない。
色丹島	大きな集落のある地	島全体が高山植物地帯で、緑に覆われた丘陵が連なっており、本州等では見られない雄大な景色が広がっている。
国後島	草の島	十数か所の温泉が存在する火山島。北東部には四島の最高峰で、世界で最も美しい二重火山の一つと呼ばれる爺爺岳があるほか、材木岩のような景勝地に恵まれている。
択捉島	岬のあるところ	国後島と同じく火山島であり、島の北端（北緯 45 度 33 分）は日本の最北端である。年間 2 万トンもの鮭や鱒が水揚げされるなど水産資源に恵まれている。

出所)「北方四島の概要」(出典:内閣府北方対策本部「北方対策～北方領土の返還実現にむけて～平成 28 年度」)

#### ■北方四島の気候

- 北方四島の気温は、周囲の海からの影響で大きな変化はなく、年間を通じて穏やかに推移している。最も暑い8月の平均気温は 15 度前後、最も寒い2月の平均気温はマイナス 6 度前後であり、北海道東部とほとんど変わらない。
- 北方四島は曇りと霧が多いため、年間の日照時間は 1,000～1,600 時間と概して短く、年間の平均降水量は 1,100～1,300mm である。
- 北方四島では山岳地形によって風向きが非常に変わりやすく、平均風速には地域差、季節差が大きい。冬期の月間平均風速は 6～11m だが、低気圧が通過すると 15m を超える。

根室の年間平均気温（1981-2010 年平均）



出所)「気象統計情報」(出典:国土交通省気象庁ウェブサイト)より作成

根室の気象（1981-2010年平均）

降水量 (mm)	気温 (°C)	風速 (m/s)
1020.8	6.3	5.3

出所)「気象統計情報」(出典：国土交通省気象庁ウェブサイト)より作成

■北方四島に生息する生き物

【動物】

- 北方四島には多くの種類の野生動物が生息しており、豊かな生態系を有している（主な動物の分類：鯨類、<sup>ききやくるい</sup>鯨脚類、ラッコ、海鳥、ヒグマ、猛禽類、淡水魚等）。
  - 四島周辺海域で見られる鯨類：ミンククジラ、ツチクジラ、シャチ、イシイルカ、ネズミイルカ、カマイルカ、セミイルカ等
  - 四島周辺に生息する<sup>ききやくるい</sup>鯨脚類：トドやアザラシ類
- 北方四島にはヒグマや猛禽類（オジロワシ、シマフクロウ等）が多く生息するが、それらの生態を支えるのは、餌となるサケ科のシロザケ、カラフトマス等の淡水魚である。
- 北方四島の近海にはサンマ、カレイ、イカ、カニ、ウニ、貝類、ヒトデ、イソギンチャク、クラゲ、ナマコ等が生息し、海の豊かな栄養分は遡上するシロザケや、カラフトマスによって運ばれる。

【植物】

- 北方四島は、温帯植物と寒帯植物が共生する広大な植物の宝庫である。また、海洋植物では藻類が代表的である。
  - 温帯植物：イチイ、チシマザサ、ヤマブドウ、アジサイ等
  - 寒帯植物：ハイマツ、ハンノキ、ダケカンバ等
- 北方四島の南部では、エゾ松、トド松などの針葉樹林が広く分布し、カエデ、竹、杉、白樺なども見られる。森林全体としては低木の雑木林が多い。四島ではこれらの木々が防風林の役割を果たしている。

4. ワークシートの活用について

アドバイス

■課題（1）：知識・理解に関する課題

- ワークシートの課題（1）は、授業を通じて生徒が理解した、北方四島の自然環境や風景などを確認するためのものである。
- 本設問を通じて、生徒が北方四島の自然や風景の中でも、特に、何に興味・関心を持ったかを発表させ、クラス全体で共有することも効果的である。

(解答例)

北方四島の中でも、国後島と択捉島は火山列島を形成し、島内には 1500m を超える高い山々があること。また、高い緯度にある島のため、もっと寒い地域だと思っていたが、四島の気候は、北海道東部とほとんど変わらないということを知った。

■課題（2）：思考・判断・表現に関する課題

- ワークシートの課題（2）は、外交的な縁遠い問題という印象が持たれがちな北方領土について、自分たちの暮らす地域や、対岸の北海道東部との類似性を発見させ、もう少し身近な地域として、捉えなおす契機となるよう用いると良い。また、新聞やテレビで見聞きしたものと異なる一面が、北方領土にはあることを意識させると良い。

（解答例）

【「自分たちの暮らす地域」と似ていると感じたこと】

周囲に高い山があり、緑が多く残っていること。また、近くの山や川には動物が多く生息していること。

【「北海道東部」と似ていると感じたこと】

緑が多く残っているとともに、平均気温の推移など、気候の面でも北海道東部の地域と北方四島は似ていると感じた。

■課題（3）：思考・判断・表現に関する課題

- ワークシートの課題（3）では、現在、ロシアに法的根拠なく占拠され、日本国民が自由に行き来することができない北方四島の自然環境をいかに守るか？という点から、国際的な領土問題の中でも、市民レベルでできる活動について考える契機とさせると良い。
- すでに日露間では、北方四島を含む隣接地域の生態系の保全に向けた協力が進められている（以下参照）。ワークシートの課題（3）について考えさせる中で、生徒に対し、これらの既存の取り組みの情報を投げかけると効果的である。

【生態系保全分野における協力】

2007年5月、10月及び2008年4月の日露外相会談において、平和条約締結交渉のための環境整備にも資するものとして、北方四島を含む日露の隣接地域における生態系の保全及び持続可能な利用に関する協力を進めることで一致しました。

これを受けて、2009年5月のプーチン首相訪日の際に、協力の具体的な方向性を示した協力プログラム（「日本国とロシア連邦の隣接地域における生態系の研究、保全並びにその合理的及び持続可能な利用の分野に関する日本国政府とロシア政府との間の協力プログラム」）が署名されました。

同プログラムに基づいて、我が国専門家による北方四島への訪問と四島側専門家の受入れが実施されています。また、日露の研究機関の間の協力（共同調査・研究等）が進展しているほか、2010年4月、ウラジオストクにおいて、両国の政府関係者及び研究者の参加により、日露隣接地域生態系保全ワークショップを開催しました。

出所「北方四島を含む日露隣接地域における協力」（出典：外務省ウェブサイト）

（解答例）

北方四島に自由に行き来することができないため、近くの山や川でのゴミ拾いのように具体的な環境活動を行うことは難しい。そのため、まずは四島に豊かな自然環境が残っていること、また、日本国内、ロシア国内において、これらの自然環境、生態系を守る必要があるという世論を醸成していくため、マスメディアやインターネットを通じた積極的な情報発信を行うことが重要であると思う。